

## ロシア政府によるウクライナへの軍事侵攻に抗議する

2022年2月24日、ロシア政府はウクライナに対して軍事侵攻を行った。これは、明らかな侵略である。

私たちは平和憲章のある大学で働き研究するものとして、今回のウクライナに対するロシア政府の侵攻に対して強く抗議し、即時撤退を求め、軍事によらない平和的な解決を求める。

21世紀に入って20年以上も経つにもかかわらず、いまだに軍事、さらには核兵器による脅しによって世界を恐怖にさすなど、科学の進歩を確信とし未来への希望を培う大学として、到底容認できるものではない。

名古屋大学では、ウクライナをはじめ多くの国々からの留学生や研究者が学び研究している。その目的は、多様な歴史と人々によって構成される世界の国々で暮らす人々が、安心して安全に暮らしていける社会を作っていくことにある。現在の世界は、人権や経済格差、食料危機や気候変動をはじめとする地球環境に関わる問題など、多くの難問を抱えている。

そして、戦争こそが最大の環境破壊であり、人権侵害である。

名古屋大学平和憲章では、「わが国の大学は、過去の侵略戦争において、戦争を科学的な見地から批判し続けることができなかった」反省とともに、「平和を希求する広範な人々と共同」し「科学の国際性を重んじ、平和の実現を求める世界の大学人や広範な人々との交流に努め、国際的な相互理解を深めることを通じて、世界の平和の確立に寄与する」ことを謳っている。

私たちは、安心・安全で平和な社会を築くために、大学で働く教育・研究・医療労働者として、今回のロシア政府の軍事侵攻に改めて強く抗議するものである。

2022年3月2日  
名古屋大学職員組合中央執行委員会